

1 調査の目的

新型コロナウイルス感染症流行下において、都内では結核病床の一部が新型コロナウイルス感染症患者の入院に運用されている。こういった状況を受け、結核患者の入院調整に時間を要する事例が発生している。とりわけ、人工透析が導入されている結核患者の入院調整が困難となっており、必要な医療が提供される体制確保が喫緊の課題となっている。医療機関の結核患者の受け入れの実態及び、受け入れのための課題を把握するとともに、分析を行い、保健所に情報提供することを目的に調査を行った。

2 調査時点との調査の回答状況

令和2年10月1日時点の状況を調査 以下の計113病院に調査票を送付し、71病院から回答

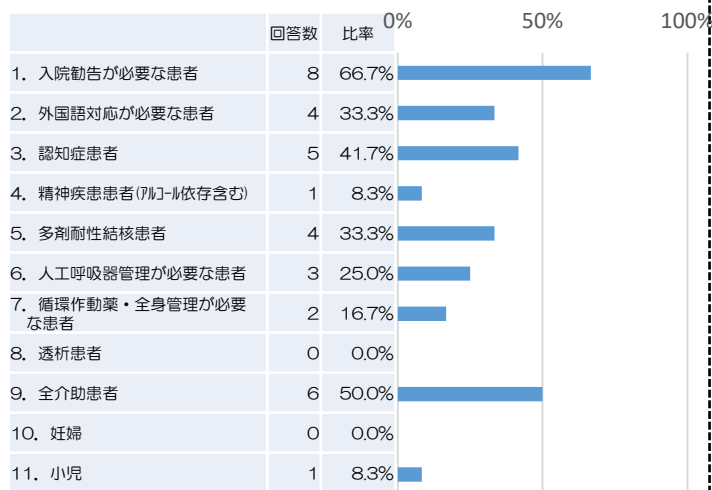
病院種別	回答	送付	回答率
(1) 結核病床を有する病院（第二種感染症指定医療機関（結核））	12	13	92.3%
(2) 結核患者収容モデル事業実施病院（協力病院）	9	10	90.0%
(3) 結核患者緊急一時入院施設整備病院	6	15	40.0%
(4) 感染症疑い患者一時受入医療機関受入謝金交付病院	3	7	42.9%
(5) 令和元年に入院勧告のあった病院（都外の結核病床を有する病院を含む）	41	68	60.3%
合計	71	113	62.8%

3 調査事項

結核病床を有する病院（1）	結核患者収容モデル事業実施病院（2）	(3)～(5)の病院																								
<p>Q1-1. covid-19患者対応による結核患者受け入れへの影響</p>																										
<p>(N= 12)</p> <p>影響なし 58%</p> <p>影響あり 42%</p>	<p>(N= 9)</p> <p>影響なし 44%</p> <p>影響あり 56%</p>	<p>(N= 50)</p> <p>影響なし 54%</p> <p>影響あり 46%</p>																								
<p>Q1-2. Q1-1で「影響あり」の場合、その要因</p>																										
<p>(N= 5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 人員が不足</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>2. 資材が不足</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>3. 結核病床をcovid-19患者に使用</td> <td>60.0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	比率	1. 人員が不足	100.0%	2. 資材が不足	60.0%	3. 結核病床をcovid-19患者に使用	60.0%	<p>(N= 5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 人員が不足</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>2. 資材が不足</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>3. モデル病床をcovid-19患者に使用</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	比率	1. 人員が不足	60.0%	2. 資材が不足	40.0%	3. モデル病床をcovid-19患者に使用	100.0%	<p>(N= 23)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 人員が不足</td> <td>47.8%</td> </tr> <tr> <td>2. 資材が不足</td> <td>30.4%</td> </tr> <tr> <td>3. 病床をcovid-19患者に使用</td> <td>95.7%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	比率	1. 人員が不足	47.8%	2. 資材が不足	30.4%	3. 病床をcovid-19患者に使用	95.7%
回答	比率																									
1. 人員が不足	100.0%																									
2. 資材が不足	60.0%																									
3. 結核病床をcovid-19患者に使用	60.0%																									
回答	比率																									
1. 人員が不足	60.0%																									
2. 資材が不足	40.0%																									
3. モデル病床をcovid-19患者に使用	100.0%																									
回答	比率																									
1. 人員が不足	47.8%																									
2. 資材が不足	30.4%																									
3. 病床をcovid-19患者に使用	95.7%																									
<p>・「影響あり」と回答した病院のうち、結核病床にcovid-19患者を入れている病院は3病院であるが、人員不足を要因として挙げる病院が5病院ある。</p>	<p>・「影響あり」と回答した全ての病院で、モデル病床がcovid-19患者に使用されている。</p> <p>・人員不足も要因となっている。</p>	<p>・「影響あり」と回答した多くの病院で、病床とともに人員不足が要因となっている。</p>																								

Q2. 現時点（R2.10.1）で結核病床に入院可能な患者

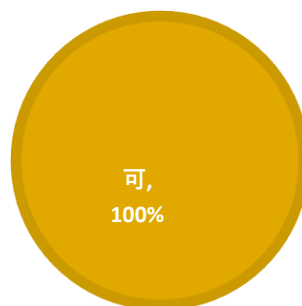
(N= 12)



・精神疾患患者及び透析患者の入院が難しい状況にある。

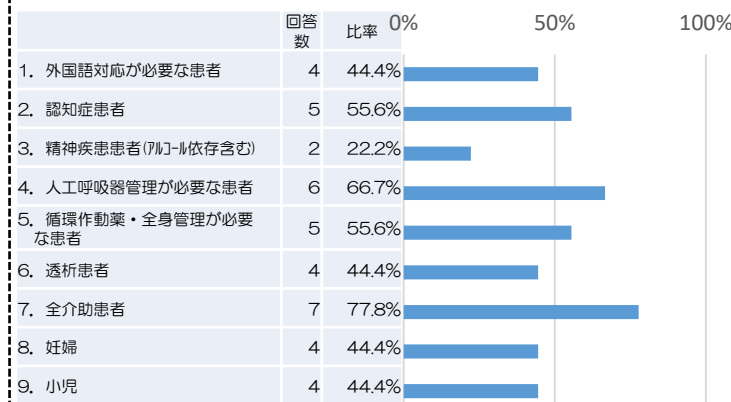
Q3-1. 結核疑い患者入院受入の可否について（R2.10.1時点）

(N= 9)



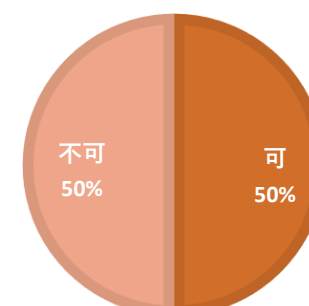
Q3-2. Q3-1で可の場合、入院可能な患者

(N= 9)

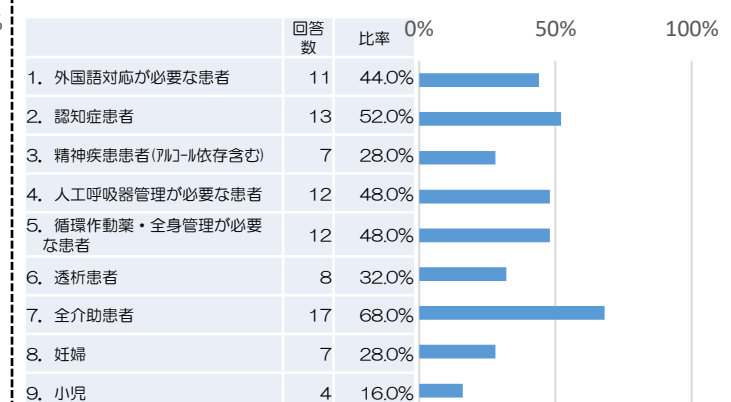


・結核疑いの段階では、全ての病院で受入れ可となっている。
 ・認知症患者や精神疾患患者等、専門的治療が必要な疑い患者を受入れることができる病院がある。

(N= 50)



(N= 25)

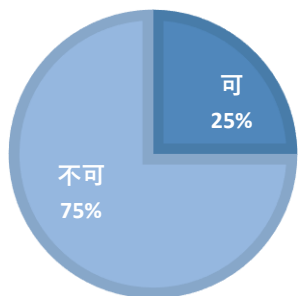


・結核疑いの段階では、半数の病院で受入れ可となっている。
 ・認知症患者や精神疾患患者等、専門的治療が必要な疑い患者を受入れることができる病院がある。

結核病床を有する病院（1）

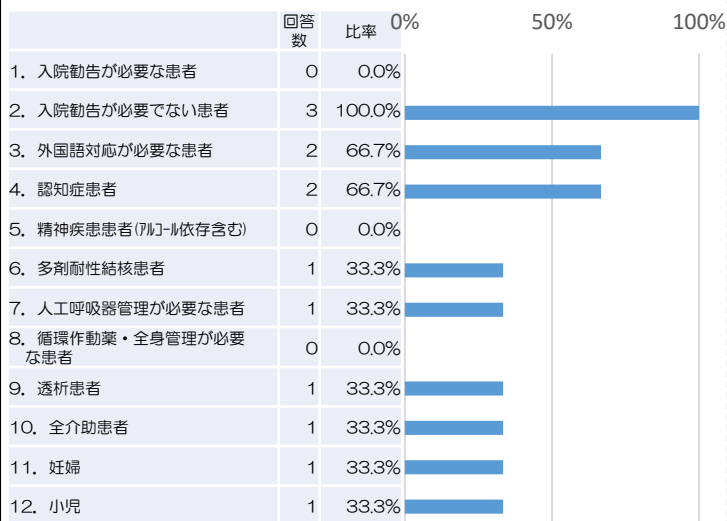
Q4-1. 結核病床以外の一般病床での結核患者の入院受入の可否について（R2.10.1時点）

(N= 12)



Q4-2. Q4-1で可の場合、入院可能な患者

(N= 3)

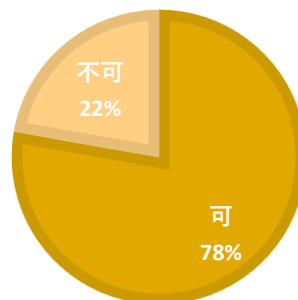


・感染性がないことが前提であっても、精神疾患患者の受入れ病院がない。

結核患者収容モデル事業実施病院（2）

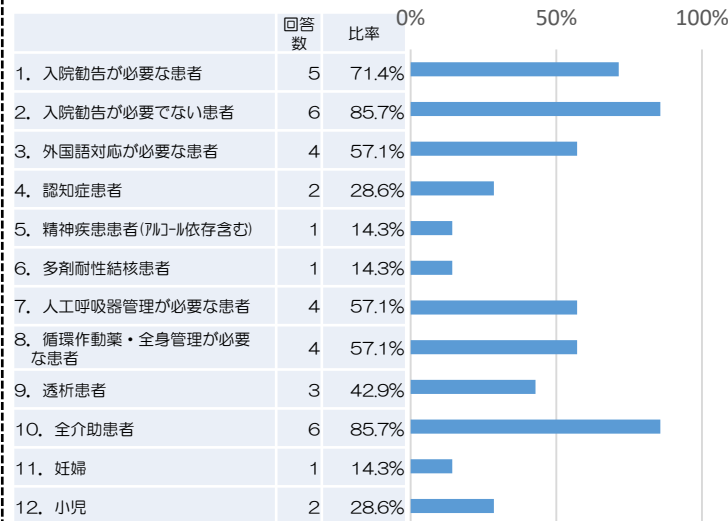
Q5-1. 結核治療を含めた結核患者の入院受入の可否について（R2.10.1時点）

(N= 9)



Q5-2. Q5-1で可の場合、入院可能な患者

(N= 7)

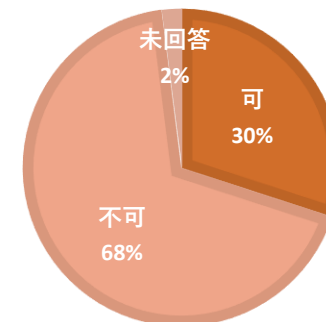


・数は少ないが、モデル事業実施病院やその他の病院において、専門的治療が必要な結核患者の受入れが可能な病院がある。
・感染性がないことが前提であっても、精神疾患患者の受入れ病院が少ない。

(3)～(5)の病院

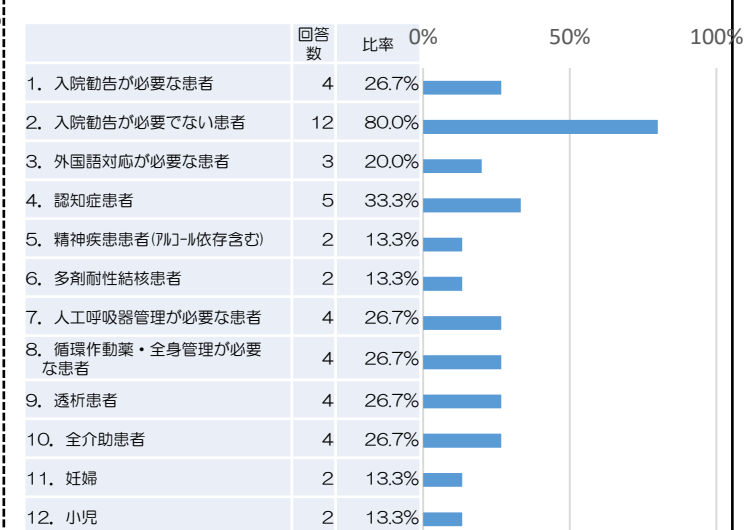
Q5-1. 結核治療を含めた結核患者の入院受入の可否について（R2.10.1時点）

(N= 50)



Q5-2. Q5-1で可の場合、入院可能な患者

(N= 15)



結核病床を有する病院（1）

Q4-3, Q4-1（前項）で不可の場合、その理由

(N= 9)

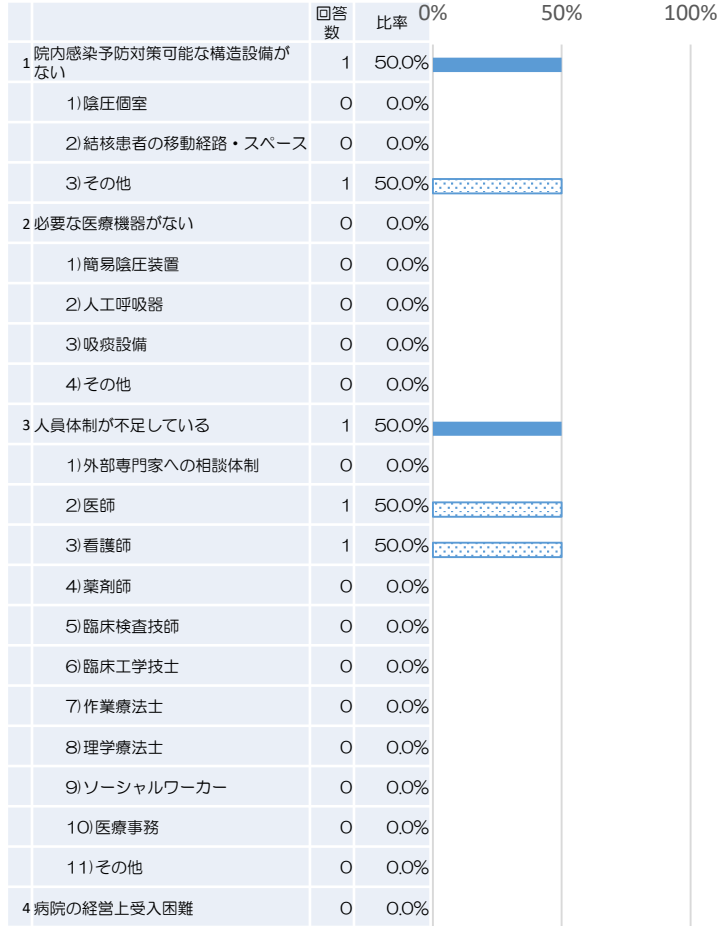


• 一般病床での受入れには、設備面の不足が大きい。

結核患者収容モデル事業実施病院（2）

Q5-3, Q5-1（前項）で不可の場合、その理由

(N= 2)

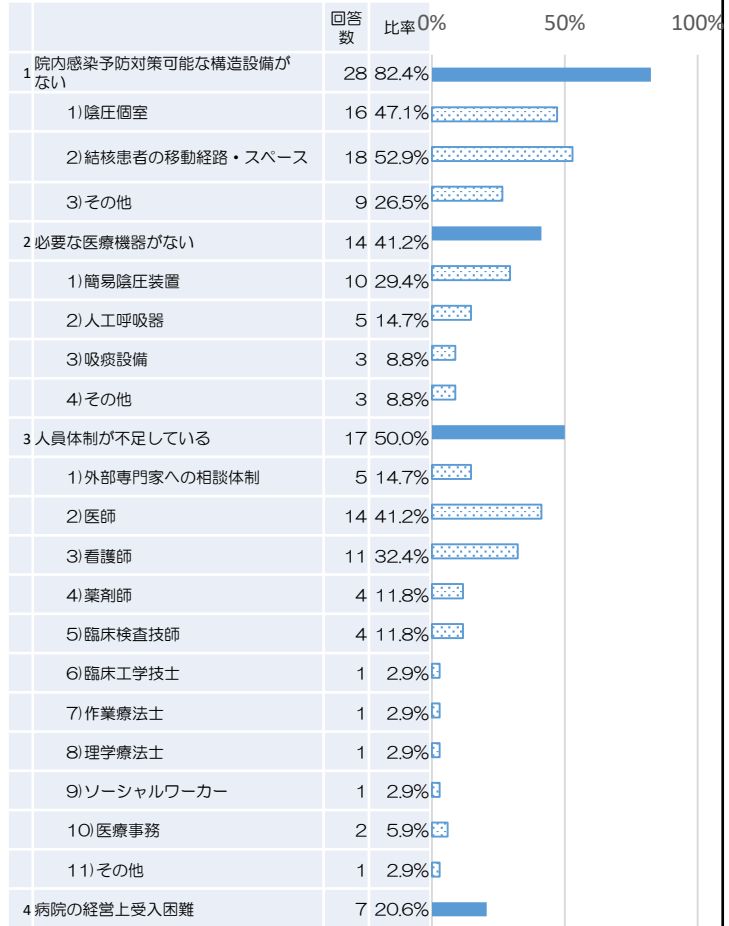


• 設備、人員体制ともに課題がある。
• 特に人員面では、医師と看護師の不足が課題

(3)～(5)の病院

Q4-3, Q4-1（前項）で不可の場合、その理由

(N= 34)



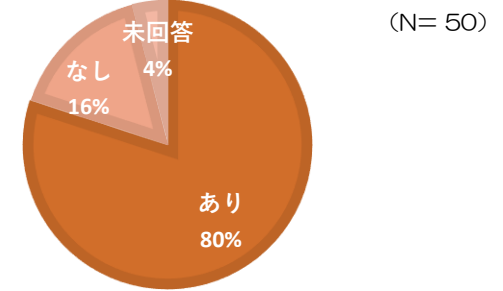
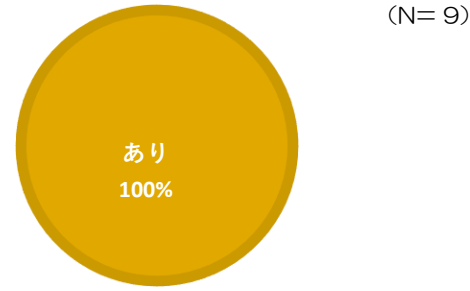
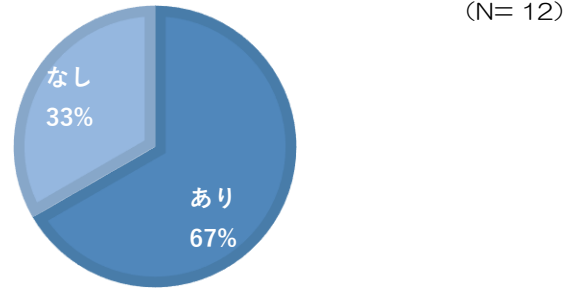
• 設備、医療機器、人員体制ともに課題がある。
• 特に人員面では、医師と看護師の不足が課題として挙げる病院が多い。
• 病院の経営上受入れが困難とする病院がある。

結核病床を有する病院（1）

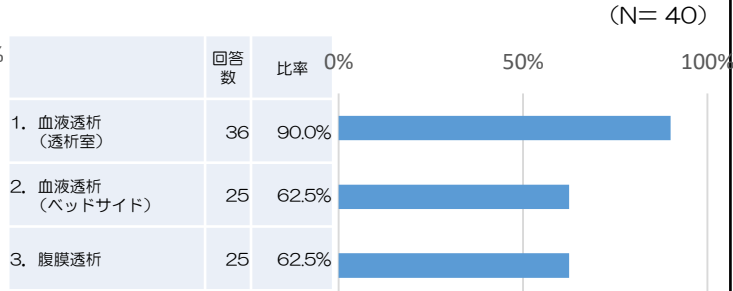
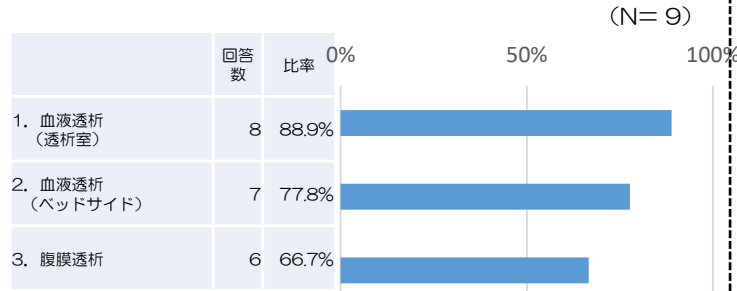
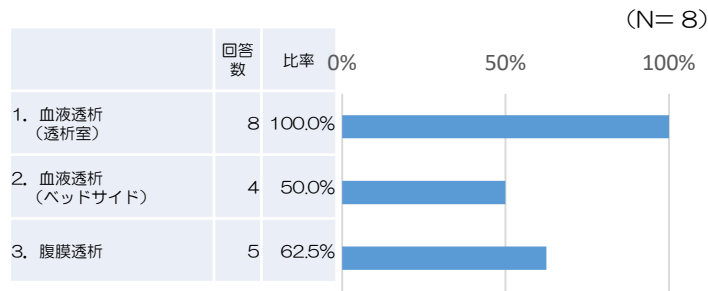
結核患者収容モデル事業実施病院（2）

（3）～（5）の病院

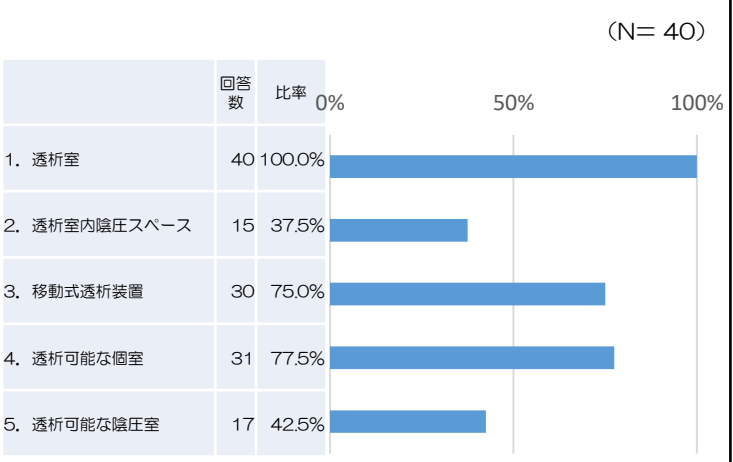
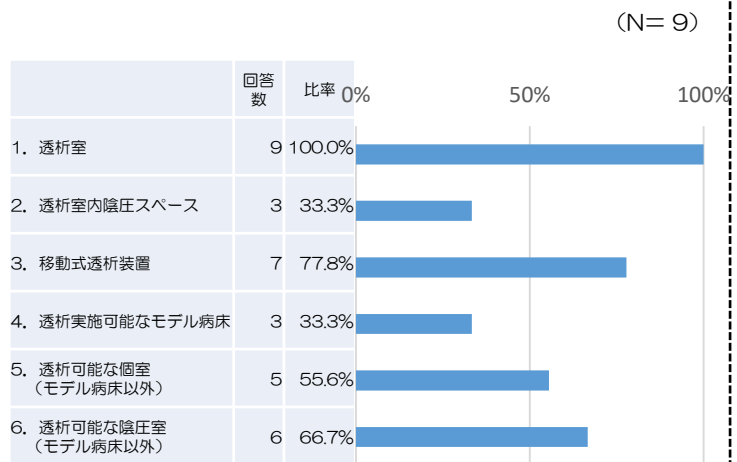
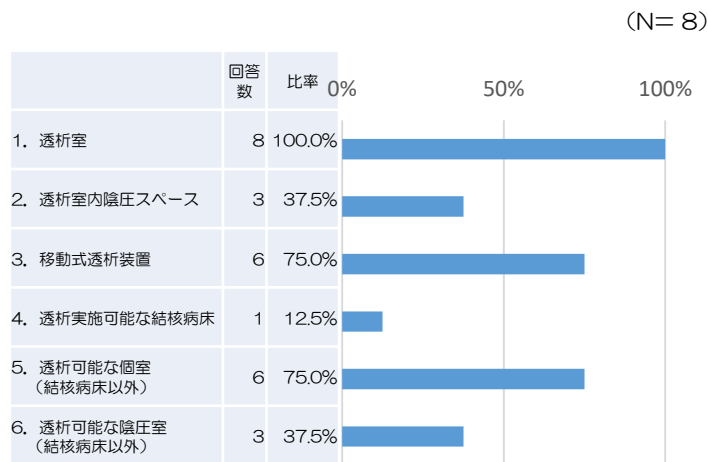
Q6-1. 透析医療実施の有無（結核患者に限らず）



Q6-2. Q6-1でありの場合、対応可能な透析



Q6-3. Q6-1でありの場合、所有する透析装置、設備



・透析医療を実施している病院は7割弱となっており、モデル事業実施病院や一般病院と比較し、透析医療を実施している病院が少ない。

・透析医療を実施している病院が多く、対応可能な透析や、所有する透析装置も多い。

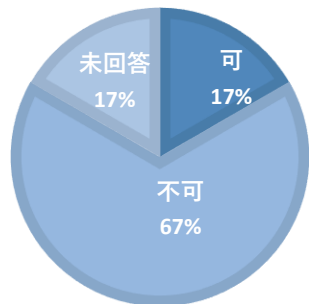
結核病床を有する病院（1）

結核患者収容モデル事業実施病院（2）

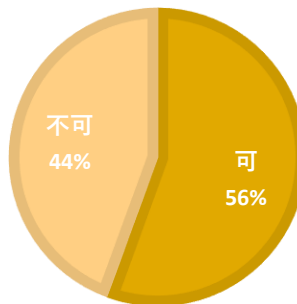
（3）～（5）の病院

Q7-1. 透析が必要な結核患者の受け入れ

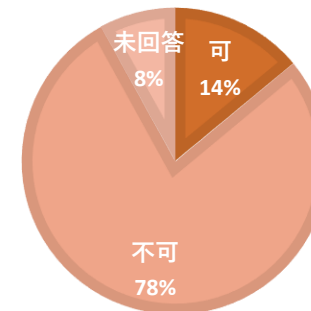
(N= 12)



(N= 9)

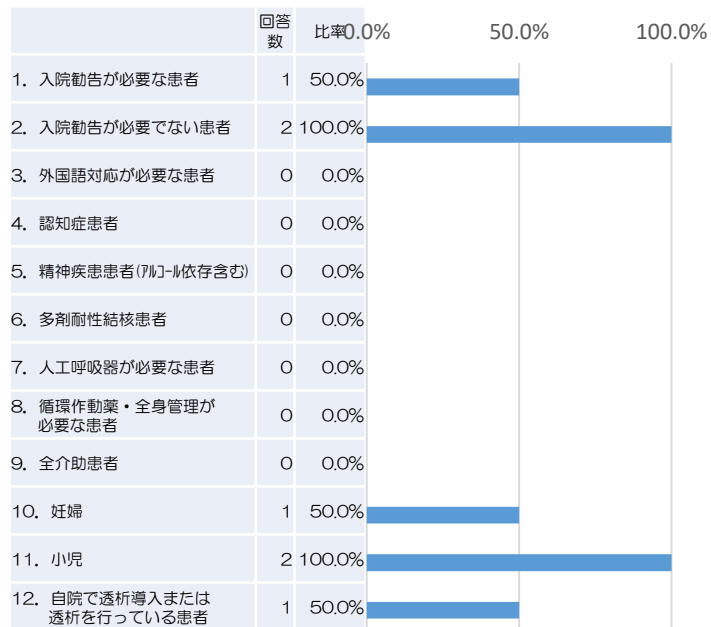


(N= 50)

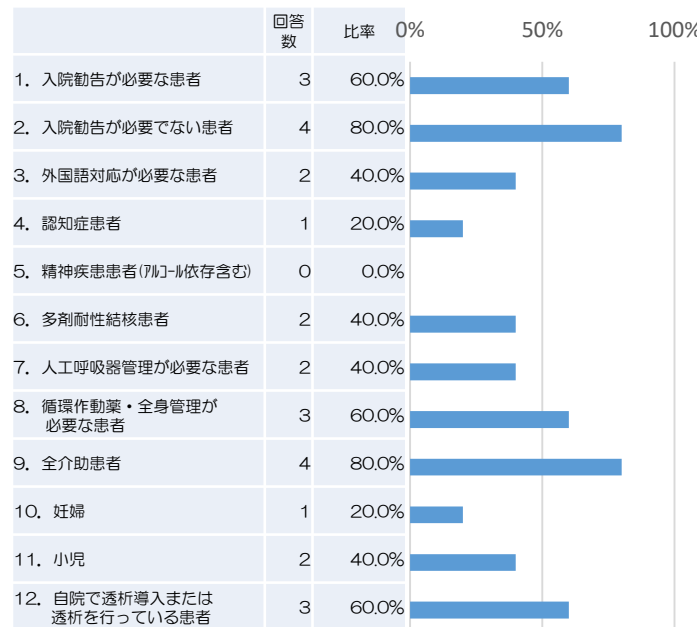


Q7-2. Q7-1で「可」の場合、現在受け入れ可能な透析結核患者

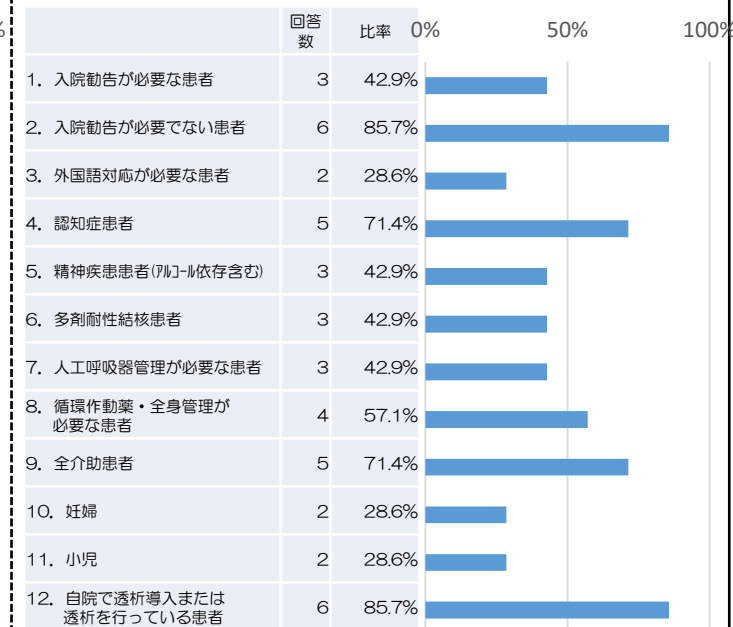
(N= 2)



(N= 5)



(N= 7)



・透析が必要な結核患者を受入れることができる病院が少ない。
 ・認知症患者や精神疾患患者等、専門的治療が必要な透析患者を受け入れることができる病院がない。

・数は少ないが、専門的治療が必要な透析患者を受け入れることができる病院がある。
 ・認知症患者や精神疾患患者を受入れる病院が少ない。

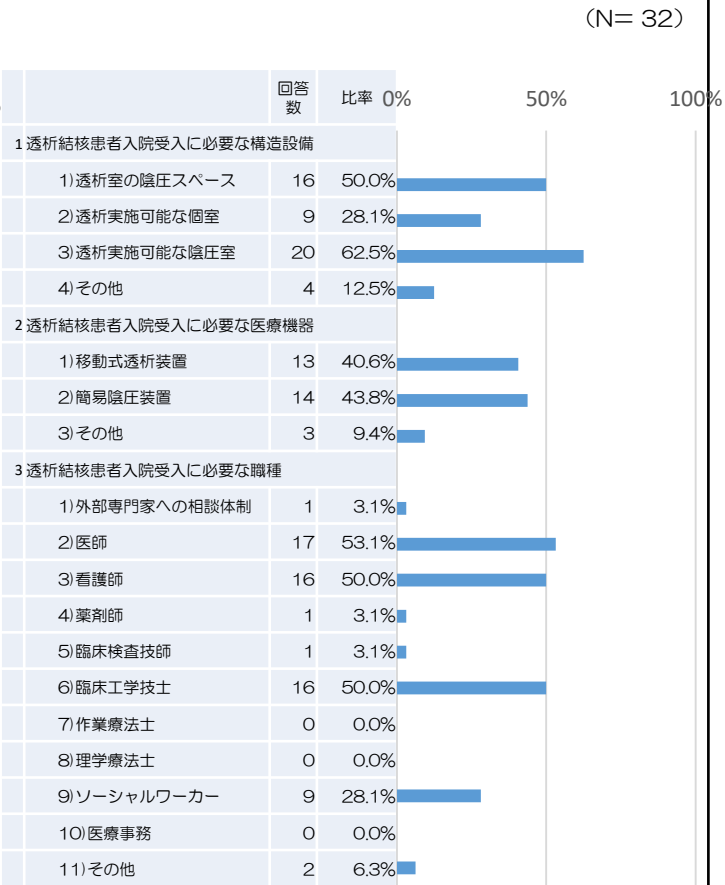
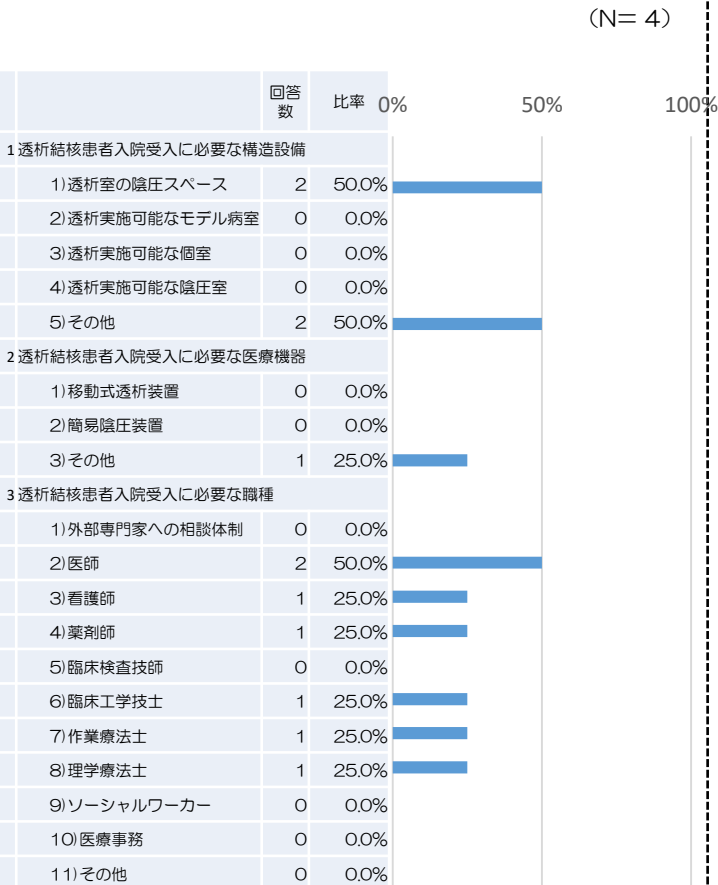
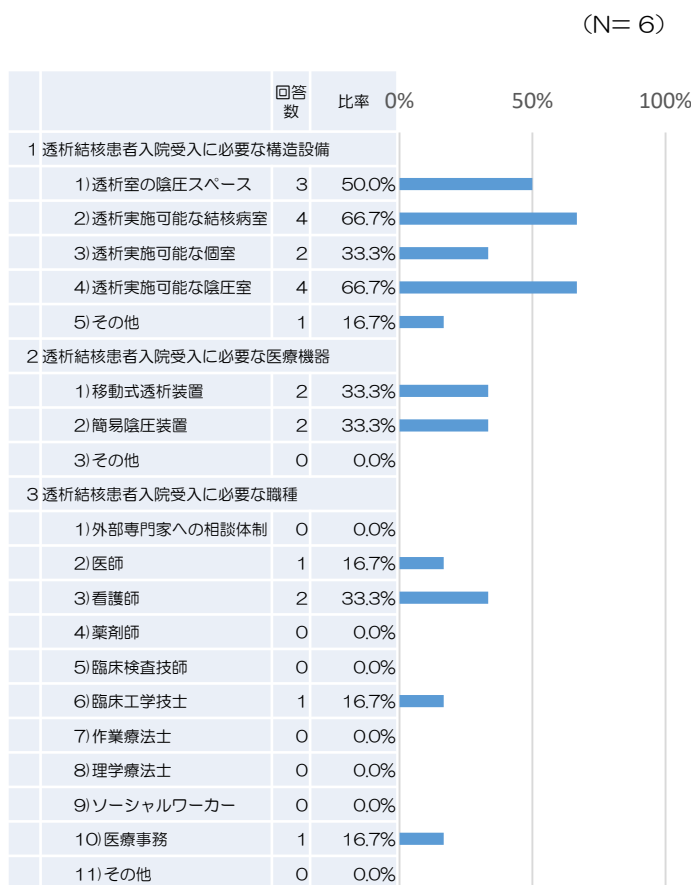
・数は少ないが、認知症患者や精神疾患患者を含め、専門的治療が必要な透析患者を受け入れることができる病院がある。

結核病床を有する病院（1）

結核患者収容モデル事業実施病院（2）

（3）～（5）の病院

Q7-3、Q6-1で「あり」かつQ7-1で「不可」の場合、受入れのための課題



・透析患者受入れには、透析室の陰圧スペース等、設備面の課題が大きい。

・設備、人員体制に課題がある。
・人員面では、医師をはじめ様々な職種が不足している。

・設備、医療機器、人員体制ともに課題がある。
・特に人員面では、医師、看護師、臨床工学技士の不足を課題として挙げる病院が多いが、ソーシャルワーカーの不足が特徴的である。

【その他、自由意見】

- ・COVID-19疑似症に対し、全例感染ありとして隔離入院させているため、結核病床を含む感染個室が不足している。
- ・人工透析は、腎臓内科医の人員不足のため対応困難。
- ・結核病床を有している病院であっても、人工透析可能な設備や対応可能なスタッフを維持していくことはとても大変なことである。
- ・入院結核診療再開を検討しているが、COVID-19の状況次第。

【その他、自由意見】

- ・自院通院中であれば、多剤耐性結核を除き、感染性の有無に関わらず入院できるようにしている。
- ・急性期の治療が必要な患者については転院先が見つかるまでの数日間の対応のみ行っている。
- ・COVID-19患者入院数によるが、結核患者発生時には、受入れに向け、調整する。

【その他、自由意見】

- ・陰圧室に限られており、COVID-19流行下では、長期入院が必要な結核患者の陰圧室使用は困難。
- ・陰圧個室内にシャワーなどがなく、長期入院は困難。
- ・今後、結核（疑い含む）患者の受け入れをしやすくするために、多くの医療機関を対象に、透析室の個室（陰圧）化等の補助事業を実施して欲しい。
- ・N95マスクの不足の影響が大きい。